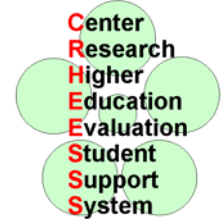


# 週刊センターニュース

No.130



第130号(2006年10月16日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 第1回石川県聴覚障害学生情報保障講習会のお知らせ

標記の講習会については、すでに事務方を通じて、各部局学生生活委員会委員等宛にお知らせしておりますし、10月13日の教育企画会議の席上でも、教職員・学生の参加をお願いしました。**10月22日(日) 13:00~17:00、会場はいしかわシティカレッジ**(金沢市広坂2丁目1-1 石川県広坂庁舎1号館2階(旧石川県庁舎新館)となっております。**障害学生支援を含む学生支援は、これからのすべての大学教員にとっての必須の知識といえます。**当センターHPにて詳細をご確認のうえ、ご参加いただきますようお願いいたします。なお、学生・院生の方々にも広くお知らせいただければ幸いです。

## 共同学習会のご案内

日時: 10月19日(木) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ: 北欧の大学評価と日本

発表者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター)

趣旨: 9月末に東京で開催された「日本・ノルディック公開シンポジウム」で得られた北欧5ヶ国の大学評価システムについての情報を紹介し、その優れた点を日本に取り入れることが可能かどうかについて検討したい。

## 理系基礎教育と大学院教育としてのTAシステム~UCB、北海道大学の事例

北海道大学高等教育機能開発総合センターは設立された1995年から学士課程教育におけるコアカリキュラムについて系統的な研究に着手し、その成果は北海道大学のカリキュラム改革に着実に還元され、2003年度文科省特色GP「進化するコアカリキュラム 北海道大学の教養教育とそのシステム」に採択されるなど高い評価を得ている。特に理系基礎教育について、科学研究費に基づく研究プロジェクトによりカリフォルニア大学バークレー校(UCB)やハーバードカレッジなど海外の大学のコアカリキュラム、授業の調査研究を進め、その成果は理学部と高等教育機能開発総合センターによる初習物理、初習化学などパイロット授業の開発に生かされ、今年度から実施されている全学での初習数学、初習理科の導入、理系基礎科目の再編へとつながった。

上記パイロット授業の開発に大いに参考にされたUCBの理系基礎の授業、特に「入門化学」については科学研究費による研究プロジェクト「大学における初習理科の授業モデルと評価モデルの開発」(2004~2006年)の一環として調査が行われた。この研究プロジェクトのディスカッション・ミーティング「理系基礎教育とTA研修」が10月1日北海道大学で行われた。理学部の小野寺彰先生からは全学的に教科書がほぼ統一されつつあることなど基礎物理学の状況について、同じく理学部の柄内新先生からは上記パイロット授業の一つである基礎生物学の3年間の実施状況、ブルーバックスでの「新しい高校生物の教科書」の出版、大学基礎生物学のアメリカの教科書の内容紹介とその翻訳など報告があった。筆者はメンバーではないが、金沢大学の今年度から刷新された教養カリキュラムの概要を紹介する機会を得た。以下、プロジェクトメンバーの北海道教育大学の宇田川拓雄先生により報告されたUCBのTA(ティーチングアシスタント)システムについて紹介する。

アメリカでは70年代後半からTA制度が導入されたが、UCBでは1989年よりTAをGSI(Graduate Student Instructor)と位置づけ、学部授業のディスカッションクラスをGSIに任せている。学部教授会とは独立に理事会直結のGSIセンターを設置し、専任教員による院生のメンタリング指導を行う体制がとられている。

UCBの入門化学(Chem1A)では、大型スクリーンを用いた演示実験、クイズ投票システムの導入、講義に引き続き行われる小グループに分かれてのディスカッションクラスなど大人数講義に様々な工夫が取り込まれている。北海道大学の上記パイロット授業でも同様の試みがなされている。GSIは小グループでのディスカッションクラスを担当する。Chem1Aのような大人数講義ばかりでなくその他の演習、ディスカッションクラスなどをGSIが担当する。理事会は、各部局に対してGSIとして院生にティーチングを学ばせるための大学院科目の開設を義務付けている。Chem1Aなど学部の科目と対をなす大学院科目が現在60科目開設されている。GSIには報酬も支払われるが、GPAが3.1以上で人物も優れているなど一定の条件を課してGSIとして採用する。4段階のレベルを設定し、最上級のGSIは非常勤講師と同等に扱われる。このようなGSI制度は、教員の負担軽減とともに大学教員を目指す大学院生のための教員養成プログラムを意図したものである。

2005年に行われた米国西部大学評価機構(WASC)の評価チームは以上のようなUCBのGSIセンターを中心としたGSI制度を「バークレー校の特に重要なティーチングインフラであり、他大学に対するモデルである」と評価している。北海道大学では「平成18年度以降の教育課程について(最終まとめ)」の中で、大学院生が従事するTAの業務、研修等を履修単位として認定するための正規授業科目を設定することが提案され、各部局での検討を促している。以上のようなTA制度は多くの大学にとって検討に値するものと思われる。(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)

## 大学教育学会課題研究集会のシンポジウム紹介

11月25、26日に本学で開催される大学教育学会課題研究集会では5つのシンポジウムが予定されています。ここではその一つシンポジウム「学士課程における理系基礎教育 教養教育からキャリア教育まで」をご紹介します。シンポジウムの主旨、シンポジストと演題は以下の通りです。

主旨：学士課程における理系基礎教育を、どのレベルから、どの範囲で、どの程度行うかを明らかにすることは、設置基準の大綱化以来の基本的で重要な課題である。90年代においては、各大学とも旧一般教養課程の内容を多少手直しする程度で済ませてきたが、2000年代に入って全般的な学力低下、少子化、キャリア教育の要請などから、根本的な立て直しが図られている。本シンポジウムでは、この問題に積極的に取り組んで特色GP・現代GPなどに採択された評価の高い事例を紹介し、次世代の理系基礎教育のあり方をさぐる。

シンポジストと演題：

「文系学生への実験を重視した自然科学教育」金子 洋之(慶応義塾大学)

「工学系基礎学力の評価と保証」渡邊 敏正(広島大学)

「企業連携に基づく実践的工学キャリア教育」西村 伸也(新潟大学)

指定討論者：小笠原 正明(東京農工大学)、秀島 武敏(千葉大学)

大学教育学会では「学士課程における理系専門基礎教育研究委員会」を設け、理系基礎教育を重要研究課題と位置づけています。この研究で主導的役割を担っておられるのがシンポジウム指定討論者の小笠原正明先生です。先生は北海道大学高等教育機能開発総合センターを今年3月に定年退職されたのち活動の場を東京農工大学大学教育センターに移されました。北海道大学高等教育機能開発総合センターにおいては、学士課程のコアカリキュラムについての研究を中心に、理工系学士課程のカリキュラム改革、教育業績評価の研究、教員およびTA研修法の開発などを手がけられ北海道大学の大学教育改革に大きく寄与されました。シンポジウムでは理系基礎教育の3つの先進事例を手がかりに理系基礎教育の今後の具体的な検討課題が浮き彫りにされるものと期待されます。本学の理系基礎教育について今後検討していくために多くの先生方のご参加をお願いいたします。

(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)